

1. 事業の位置付け

事務事業名	里山保全推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等	平塚市環境基本条例・神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例		
対象・受益者	市民、事業者、行政などすべてのもの	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 市民、市民活動団体、大学、学校】		
目的・目標		事業の概要	
里山を復元するとともに、復元された里山を自然とのふれあいや憩いの場、また生産の場として活用し、自然環境保全活動が活発に行われています。		自然環境評価結果に基づき、西部丘陵地域の自然を保全するため、市民や市内の大学との協働による里山の手入れや里山モデル地区での活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	里山保全活動開催回数			単位	回
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の開催回数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	7	7	9		
	実績	7	9	9		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	里山保全活動参加者数			単位	人
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の活動参加者数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	400	450	600		
	実績	363	578	471		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	生活様式の変化等を背景に里山の管理が行き届かず、その恵み多き機能が失われてきています。市民活動団体や大学等との協働により、荒廃した里山の保全再生・活用を促進する必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	里山の再生、保全及び活用の活動を継続的に実施することは、里山についての市民の意識を高めるとともに活動への参加を促進し、里山の持つ多面的機能を次世代に引き継いでいくために有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	荒廃した里山を再生し、里山の持つ多面的機能を次世代に引き継いでいくためには、市民活動団体や大学等との協働により事業を継続、拡充することが重要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	県条例の補助制度の活用とともに、市民・大学・市が各々の役割と責任を認識し、地域住民や市民活動団体を主体とする活動への移行を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	914
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	526	446	551
事業費 (A)		526	446	1,465
執行率 (%)		94.60	73.60	211.71
内訳	職員 (人)	0.70	0.69	0.69
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,874	5,790	5,766
フルコスト (A+B)		6,400	6,236	7,231

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	用地交渉を重ね里山保全モデル事業用地を拡大した。組織体制の確立のため、地権者、環境保全団体、小学校、有識者、農業委員への参加を呼びかけ里山保全協議会を設立し、市民ボランティアと散策路の整備、下草刈り等を実施した。地元自治会、山林・農地地権者を対象に事業説明会を開催した。庁内里山推進会議では事業計画を研究した。市民大学交流事業や子ども環境教室を市民、大学、自然環境保全団体と協働で実施した。これらにより自然環境保全活動が活発に行われた。*	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施するなど、自然環境保全活動が活発に行われました。*	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施し、自然環境保全の啓発等に努めました。* また、神奈川県里山山の保全、再生及び活用の促進に関する条例に基づき、市民活動団体2団体の活動協定が認定され、県とともに活動を支援しました。*
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	B: おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が必須である。地元住民の参加を得られていない状況に鑑み、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図る。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。地元住民の参加を得られていない状況を踏まえ、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。土屋地区里山モデル事業を継続して実施するとともに、地元住民への説明会を開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	よみがえれ、ふるさとのせせらぎ事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	～ 2009 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： あじさいの会】		
目的・目標		事業の概要	
地域の人々が地域の川を知り、大切にすることをはぐくみ、水辺に親しむ環境づくりが進んでいます。		水辺に親しめる環境づくりのため、河内川で啓発イベントを開催し市民による施設の維持管理を目指します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	3	3	3		
	実績	3	3	0		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	イベント参加者数			単位	人
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	100	130	150		
	実績	60	50	0		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	河内川については、河川環境への関心が高くアジサイの植栽などの活動を通し市民ニーズは高いことから、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	かつての「どぶ川」から地域活動により環境が改善されてきているおり、継続した活動をとし更なる向上が見込めることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	河川環境の向上を目的とし進めてきた事業であり、地域住民が継続して美化活動を行う必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	地域住民との協働により河川環境を向上する必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		調査・観察会の開催	調査・観察会の開催	調査・観察会の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	66	0	0
事業費 (A)		66	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.46	0.46	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		3,860	3,860	0
フルコスト (A+B)		3,926	3,860	0

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている イベント実施日が他のイベントと重複しており、参加者が分散したため。	③: 遅れている 地元住民への告知及び新型インフルエンザの影響で開催を見送ったため
	主な取組と成果	上流探検会1回、生き物調べ2回を実施。生き物調べを実施することによって水質調査が数値だけでなく実態として河川環境が改善されていることが理解出来たが、参加者数が目標に至らなかった。	上流探検会1回、生き物調べ2回を実施しました。生き物調べを実施することによって水質調査が数値だけでなく実態として河川環境が改善されていることが理解出来ましたが、参加者数が目標に至りませんでした。	上流探検会1回、生き物調べ2回を予定していましたが、地元住民への告知及び小学生の新型インフルエンザの影響で開催を見送ったため実施できませんでした。
検証結果		C:十分に成果をあげることができなかった	C:十分に成果をあげることができなかった	C:十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		少しずつであるが河川環境が向上してきている。今後は生き物調べなど地域住民が主体となって調査活動が行えるよう地域を育成指導する必要がある。	少しずつではありますが、河川環境が向上してきています。今後は生き物調べなど地域住民が主体となって調査活動が行えるよう、地域を育成指導する必要があります。	今後は神奈川県湘南地域県政総合センターが主導する「湘南里川づくり」制度により、より多くの市民活動が行えるよう地域をバックアップする必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	水辺の散策路整備促進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	
委託、協働	【委託：○3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：馬入水辺の楽校の会】		
目的・目標		事業の概要	
馬入橋から神川橋までの高水敷に水辺の散策路を整備し、川に親しめる環境づくりを河川管理者と進めています。		河川に親しめる環境づくりのため、河川管理者に水辺の散策路の整備促進を働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	流域住民との検討会開催回数			単位	回
	説明・算定式	流域住民との検討会の実施回数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	1	2	3		
	実績	1	2	1		
活動指標②	指標名	国への要望回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	1	1	1		
	実績	1	1	1		
成果指標①	指標名	利用可能な水辺の散策路延長割合			単位	%
	説明・算定式	馬入水辺の楽校エリア内の散策路(総延長820.1m)の整備率				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	-	30	60		
	実績	-	0	90		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	馬入の河川敷は不法投棄などの環境改善を目的とし花畑などの整備が国・県・市の事業として進めてきました。近年では、利用者も増加し、堤防道路との回遊性を持たせたルートは整備は必要性が高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	車椅子利用者やお年寄りのためにも、バリアフリー化を図る必要があることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	「馬入花畑」や「水辺の楽校」エリアの利用者増加にともない、散歩やサイクリングなどの市民ニーズも高まっていることから、より一層の環境改善を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されていることから、国による整備を働きかけます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出、散策路等の維持管理
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	4	333	1,010
事業費 (A)		4	333	1,010
執行率 (%)		0.00	2.08	50.50
内訳	職員 (人)	0.57	0.57	0.57
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		4,783	4,783	4,763
フルコスト (A+B)		4,787	5,116	5,773

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	③:遅れている 散策路の整備延伸を国が予算化したものの、業者が決定せず21年度以降の着手となりました。	③:遅れている 検討課題がスムーズに解決しており、意見交換程度の会合開催で事業運営可能なため
	主な取組と成果	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会の実施1回。国に対し散策路の整備延伸を協議した。また、要望の結果、国が予算化した。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国に対し散策路の整備延伸を協議し、その要望の結果、国が予算化した。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国が「かわまちづくり事業」を活用した馬入水辺の楽校内の散策路の整備を行ない、一部を除き舗装施工が行なわれました。
検証結果		A:成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった	B:おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		整備は国で行うが、維持管理は市で行うことが約束されており今後の管理費用の増加が見込まれる。	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の管理費用の増加が見込まれます。	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の散策路延伸協議や管理費用の増加が見込まれます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	海岸浸食対策促進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、海浜利用者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
美しく広々とした砂浜が確保されています。		美しい海浜を確保するため、ヘッドランドや人工リーフ・養浜など、海岸浸食対策事業の推進を県に働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	県への要望回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	1	1	1		
	実績	1	1	1		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ヘッドランド(横堤)整備進捗率			単位	%
	説明・算定式	県のヘッドランド事業における全体事業費に対する割合				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	68	81	90		
	実績	75.1	81	90		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平塚海岸の侵食対策であり、必要性は高いと思われます。ヘッドランド横堤の継続的設置で海水浴場付近の砂堆積の成果が見られることから、縦堤の設置についてその可否決定が行われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	ヘッドランドが延長されることにより、海岸侵食が抑制され泳げる海の保全が期待できることから、有効性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input checked="" type="checkbox"/> その他	平塚海岸の侵食を防止し、さらなる保全を図る必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	今後も県に対して要望活動を行っていきます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.16	0.16	0.16
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,343	1,343	1,337
フルコスト (A+B)		1,343	1,343	1,337

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
	遅れている理由	—	—	—
主な取組と成果		県への要望活動を行った。消波ブロックを設置した。	県への要望活動を行い、消波ブロックを設置しました。	県への要望活動を行い浜崖部分への養浜が行われ、ヘッドランドの消波ブロックも計画通り設置されました。また、平塚土木事務所主催の縦堤設置に関する技術検討委員会が開催され、実施について検証しました。
検証結果		A : 成果があがった	A : 成果があがった	A : 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。	県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。	平塚海岸の侵食対策は神奈川県相模湾全体の侵食対策事業により検討が行なわれています。また、養浜対策用の砂の確保が課題となっています。ヘッドランド設置の効果は砂堆積の実績が現れており、縦堤の設置は22年度中に可否決定されます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	自然観察園整備事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
市民が里山の自然環境に親しむ機会を多くもち、多様な環境学習を繰り広げています。		土屋地区の豊かな里山環境を、自然に親しむ場として、また環境学習を行う場として活かしていくため、既存緑地を活用した自然観察ウォーキングを催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント開催回数			単位	回
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの開催回数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	3	5	6		
	実績	4	3	5		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	イベント参加者数			単位	人
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの参加者数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	50	100	100		
	実績	50	31	74		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民が里山の自然環境に親しむ機会を持つために必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	自然観察ウォーキングなどの開催を継続することで、理解と協力の意識を高めます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	生物担当学芸員のできる範囲で事業を進めています。	○ 高 ○ 中 ● 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	関連各課と協働で事業を展開する必要があります。	○ 高 ○ 中 ● 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		自然観察ウォーキングの実施・	自然観察ウォーキング、ガイド マップの作成	自然観察ウォーキングの実施
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	292	42
事業費 (A)		0	292	42
執行率 (%)		0.00	19.47	2.80
内 訳	職員 (人)	0.20	0.20	0.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,679	1,679	2,089
フルコスト (A+B)		1,679	1,971	2,131

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進 捗 状 況	遅れている 理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている 自然観察園整備事業は地元の 理解と協力が欠かせないため、 時間が必要です。	②: 若干遅れている 参加希望者を増やす広報など関 心を持ってもらうための工夫が足 りませんでした。
	主な取組と成果	自然観察ウォーキングを3回、土 屋子ども探検隊を1回、実施する ことにより、市民が里山の自然環 境に親しむ機会をもつことができ た。	自然観察ウォーキングを2回、土 屋子ども探検隊を1回、実施する ことにより、市民が里山の自然環 境に親しむ機会をもつことができ ました。	自然教室の中で2回、土屋子ども 探検隊を1回、自然観察ゼミナ ール「土屋で学ぶ」の実施により、 市民が里山の自然環境に親しむ機 会をもつことができました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	C: 十分に成果をあげることができなかった 平成22年度への展開	B: おおむね成果があがった 平成23年度への展開
今後に向けた 課題		自然観察園の計画を進めるため、 継続的な実施が必要である。	自然観察園の計画は地域の理解と 協力が必要ですが、必要性和効果 を理解していただくのに時間がか かります。	自然に関する知識や観察マナーな どを、より多くの市民に理解して いただく必要があります。